

「長年のおつきあい」 障害者も「信頼」を支える一員に

—株式会社さんびる—

職場
ルポ

EMPLOYEE REPORT

(文) 清原れい子 (写真) 小山博孝



株式会社さんびる

〒690-0884 島根県松江市南田町92-1
TEL 0852-26-0335 FAX 0852-26-0339
URL <http://www.sanbg.com>



田中正彦代表取締役

**親しまれてきた
「さんびる」を社名に**

山陰を中心にビルメンテナンス業を展開する「株式会社さんびる」。地元の大手企業で、松江のほか、出雲、浜田、米子、鳥取などに営業拠点がある。従業員は工場などのように一カ所に出社することとはなく、契約先のオフィスや病院、官公庁に直接出勤する。障害者八名もその中の一員。というわけで、今回の取材先は、松江市、雲南市、飯南町と、東西二三〇キロと細長い島根県の半分近くに及んだ。

宍道湖に近い、松江市中心街の本社はこじんまりしていて、松江営業所と同じ建物の二階にある。まず本社で、社長の田中正彦さんにお話をうかがった。会社

の設立は一九七七年。昨年一〇月、「山陰ビルサービス」から「さんびる」と社名を変更した。

「ビルの清掃や保守、警備から、ほかの分野に業務が広がり、昨年春から山口県萩市のお客様からも声がかかって、社名から受けるイメージがずれてきました。そこで社内で公募して、昔からお客様に『さんびるさん』と呼ばれていましたので、なじみのある名前を社名にしました」

現在は、清掃業務が六割、そのほか設備保守、保安警備、環境衛生などの業務を行っている。従業員は、正社員約三〇〇人と、六〇歳以上の嘱託社員、アルバイト、パートを含めると八〇〇人近くになる。

「障害がある、ないで、社員の区別はしていません。最近、五年勤続者の一泊旅行で、左手が不自由な社員と話をしました。彼は言葉もはっきりしていませんが、一生懸命仕事をしている姿勢から伝わるものがありますから、お客様の評価は高いんです。本当のサービスは、お客様にこうしてあげたいという姿勢の中に出てくるものだろうと思います。それは、障害があるうとなかるうと等しく伝わるものだと思います」

社員は、それぞれが「さんびる」を背負う形で、契約先の事業所や病院などに入っていく。

「出会いの中に、私たちのサービスのスタートがあると思っています。そこに入る社員がサービスを作り上げますので、一人ひとりの姿勢がすべてです。社訓は『礼節・信用・責任』で、まず『言葉づかいと態度に注意し、品性の向上につとめる』としています。その姿勢は必ず相手に伝わりますから、みんなですべていきましようと話しています」

社員が一同に会することがないため、社内報「喜窓」を毎月、三〇〇ページ近い「いしずえ」を年一回発行して、コミユニケーションを図っている。五年勤続者は国内一泊旅行、一〇年勤続者は韓国などの海外旅行へ。誕生月には、五年間はコーヒーマップを一客ずつ、次の一年はスプーン、その後はマグカップ……と誕生祝いを渡す。

「受取書代わりにはがきを入れて、誕生祝いをもたらす思いや近況報告をしてもらい、会社側の返事とともに社内報に載せています。年に数回、研修会で顔を会わせることはありますが、現場の社員はおお客様の建物に直接出勤して直接家に帰りますので、社員のコミュニケーションをとるツールの一つにしています」

**職種は清掃と警備。
採用は営業所ごとに**

「さんびる」には、身体障害と知的障

職場 ルポ



竹田幸夫さんびる松江営業所長

害の人たちが四名ずつ働いている。職種は清掃と警備。障害者は正社員、パートとして採用し、給料などで差はつけていない。

田中社長は会社設立の二年後、現場の従業員として入社。その後、営業、各地区の責任者を務め、五年前に専務、今年一月社長に就任した。現場で障害者と一緒に働いた経験もある。

「清掃の仕事に支障がなくて、一生懸命に働いてくれば採用します。採用は営業所ごとに行っていますが、地元の養護学校から就職したいと相談があったり、職場の実習で現場のキャップやメンバーと親しくなっていて、入社したりしています。ただ、

我々はその人の障害を理解しても、お客様になかなか理解していただけないことがありますね」

仕事先は、民間の事業所が半分以上を占める。採用が決まると、事務所でマネージャー研修を行い、現場で「指導員」が技術指導を行う。知的障害者の場合は、ジョブコーチがついたり、指導期間を長くとったりして、ていねいに教えている。その後は、現場でキャップと呼ばれるリーダーが面倒を



みていく。

長年、メンテナンスに入っている精神病院では、社会復帰の前段階として精神障害回復者も雇用している。

「障害者、高齢者よりも、若い人を入れれば、掃除をする面積は上がると思いますが、お客様から見た場合、年配の方が出す雰囲気には癒しの世界があると思います。この業界は一人ひとりの生産高を上げないと安く請け負えません。お客様が喜ぶ世界を何とか作り上げたいので、生産性だけを追求しなければならぬ仕事には入らないようにしています」
実は、昨年は十数人の障害者が働いて



松江赤十字病院でクリーンクルーとして働く三島幸平さん。島根障害者職業センターのジョブコーチらが指導・支援にあたった



三島さんとともに働く竹田弘子さんと松浦秀夫さん

松江赤十字病院

〒690-8506 島根県松江市母衣町200
TEL 0852-24-2111(代表) FAX 0852-24-9783
URL <http://www.matsue.jrc.or.jp>

WORKSHOP REPORT



いた。官公庁の清掃業務は一年契約で、毎年入札が行われる。競争は厳しく、全館から破格値で入札する業者もいる。

「官公庁は毎年三月末になると冷や汗物です。次の会社が雇ってくれれば継続できますが、雇ってくれないと働いている人たちの行き場がなくなります。障害者は雇わないという会社もあります。別の職場で吸収できればいいのですが、ほかにも満杯だとむずかしい……。人が建物に入って清掃していますので、この世界は随意契約が多かったのですが、半値で入札する業者が出るとそちらに変更になります」



三島さんの仕事を振り返る松江赤十字病院の曾田泰邦施設管理課長

「ゴミの分別はおもしろい」

次に、障害者が働く現場へ。最初は本社一階の松江営業所で、所長の竹田幸夫さんに話を聞く。管内には知的障害者三人、身体障害者一人が働いている。

「現場に行くたびに声をかけていますが、取材していただく二人とも、冗談を言うと返してくれます。仕事ぶりはまじめで、仕事にハンディがあるとは見えません。みんなと一緒に見てほしいという気持ちがあると思いますので、同じようにお話しすることを心がけていますし、現場のキャップには、みんなと同じように対応して欲しいと話しています」

取材の段取りをしていたいた本社総務企画部で、障害者担当の吉野伸子さんと竹田さんとともに、歩いて松江赤十字病院に向かう。病院は、同じ場所での建て替え工事が始まったところだ。ここでは、清掃と院内のゴミの最終分別、試験管の洗浄などで三二名が働いている。

三島幸平さんの職場は、ゴミの最終分別。「燃えるゴミ」「燃えないゴミ」に分別して出されたゴミを再点検して、ジュース類の缶やダンボール・新聞紙は再利用に、医療関係の廃棄物は別の容器に分ける。最初は、就労支援のジョブコーチが作業を教えてくれた。

「入社して二年です。一日中忙しいので



地方自治体の関連施設で清掃作業をする三島茂義さん。入社して9年目になる

すが、分別しているといろいろなものがあって、結構楽しいです。この仕事は気に入っています。五年、一〇年の旅行にいけるよう、がんばります」

就職後、グループホームに入って、自立へ向けて歩み始めた。

「実家も楽しいですが、グループホームは友だちがいるので楽しいです」

職場の先輩のみなさんの言葉。

「健康状態に気をつけてみています。最初は休みが多かったのですが、グループホームへ入ってからは休まなくなりましたね」

「助かっていますよ」

お客様側の責任者、松江赤十字病院施設管理課長の曾田泰邦さんも、毎日顔を会わせている。

「二日一回は院内を見て回りますが、明るくあいさつしてくれますし、話しやすい、いいキャラクターを持っていると思います。健常者よりもむしろさちんと

公立雲南総合病院

〒699-1221 島根県雲南市大東町飯田96-1
TEL 0854-43-2390(代表) FAX 0854-43-2398
URL http://user.yoitoko.jp/unnan-h/



「さんびる」と20年来の付き合いで、信頼も厚い公立雲南総合病院の小林利春事務部長(写真右)と田中稔総務課長

したあいさつをするのがうれしいですね。自信をもって仕事をしているのがすばらしいと思います」

温かな人間関係に囲まれて、自分の仕事を「楽しい」と言えることはすばらしい。

松江ではもう一カ所、オフィスビルで働く三島茂義さんの現場を訪ねた。職場の同僚は、三島さんのお母さん世代の女性たち五人。床掃除を担当している。

「靴のかかとを引っ掛けて床に黒くついた汚れや、シミが落ちているかどうかに注意して、掃除をしています」

自宅からは自転車まで五分。休日は、古本屋やフリーマーケットめぐり。今年末に勤続一〇年を迎える。うす緑色の帽子、ブルーのユニフォーム姿がよく似合う。

廊下をピカピカに。
六五、七〇までも働きたい

続いて、吉野さんと出雲営業所長の石飛京子さんの案内で、あふれる緑の中、松江から車を走らせること約一時間、六町村が合併して誕生した雲南市へ。公立雲南総合病院は一九四八年に設立され、地域医療を担ってきた。

安部聖^{たかし}さんは、養護学校時代に職場実習をして、ここで働きたいと六年前に就職した。総務課長の田中稔さんは、彼の成長の様子を見守ってきた。

「最初は引つ込み思案でしたが、二年ほど前から自分から『おはようございます』と声をかけるようになり、『いい子だな』とみなさんに認められるようになりました。さびきびと仕事をしていますよ」

仕事場は病院の南棟が中心で、午前中は階段やスロープ、廊下など、午後はホールや廊下などの清掃と、ゴミの分別もする。廊下はピカピカだ。

「この廊下は、僕が掃除しました。ゴミが残ったり、汚れが残ったりしないように気をつけています。仕事はけっこういいなと思っています。周りの人たちに気持ちよく感じてもらえるように、ピカピカに磨くことを心がけています」

天気の良い日はバイクで、雨や雪の日にはマイカーで通勤する。給料で車やバイクのローンを払い、家にお金も入れている。雨の日も風の日も、建物周囲の清掃の手を抜かない仕事ぶりが評価されて、昨年暮れに「社長賞」をもらった。

「うれしかったです。六五になっても七〇になっても、この仕事は続けたいです」
「うちでは、お客様からおほめの言葉をいただいたり、感謝されたりした社員

病院での働きぶりが評価され、「さんびる」の社長賞を受けた安部さんを祝福する小林利春事務部長と「さんびる」の石飛京子出雲営業所長



を表彰する社長賞のシステムがあります。こちらの病院では、私どもの社員は長く勤める方が多く、みなさん仲がいいですね」と石飛さん。

事務部長の小林利春さんは、取材の申し込みを受けるまで、安部さんに知的障害があるとは知らなかったという。それは、安部さんが自然に働けているからなのだろう。

「廊下や階段を掃除している姿を毎日見えますが、黙々と仕事をしています。自分の仕事が楽しいとはなかなか言えません。あいさつもきちんとしています。見習わないといけませんね」

「さんびる」への業務委託は長く、現在は一七人が働いている。

「地域に親しまれ、信頼され、愛される病院として、患者様中心の医療を行いたいと思っていますが、縁の下の力持ち的な仕事をうまくやっていただいている



病院内外の清掃とゴミの収集・分別作業を行う安部聖さん

WORKSHOP REPORT

島根県飯南町立飯南病院

〒690-3207
島根県飯石郡飯南町頓原2060
TEL 0854-72-0221
FAX 0854-72-1333

奥野さんと話す飯南病院の
五明田祥司事務長

ので、二〇年のお付き合いが続いているのだと思います」

「きちんとあいさつ」で、 社長賞

車でさらに中国山地へ。広島県と接する飯南町は、昨年一月に頓原町と赤来町

が合併して誕生、二〇〇〇年にオープンした病院も飯南町立飯南病院と名を変えた。クリーム色にやわらかな緑がアクセントの明るい建物の中に入ると、床はフローリング、待合室の一角には畳のスペースもある。かつてスポーツ少年団、いまはママさんバレーの指導者として地域とかかわる事務長の五明田祥司さんは、玄関の二階までの吹き抜けスペースで、小学生のミニコンサートが開ければとの



子供のころ農機具で左手首を切断。義手をつけ、ハンデイキャップを越えて飯南病院でがんばる奥野武美さん

夢がある。

「ここは、へき地の中核病院です。住んでおられる方々が安心して暮らせる、地域のみなさんに愛される病院になりたいですね。お金を払う患者様が立っていて、職員が座っているのではサービスにならないと、受付の医事課は立って仕事をしています。そうすることで、院内への視野が広がります」

「さんびる」とは開業時からの「お付き合い」で、三人が働く。

「人とのあいさつができていいことが基本だと思いますが、仕事ぶりはいいと思いますよ。奥野さんも患者様にもスタッフにもきちんとあいさつができますので、違和感はないですね」

田中社長の話にも登場した勤続五年表彰の奥野武美さんは幼いころ、左手を怪我し、義手をつけている。

「仕事は慣れたので、大丈夫です。休みの日は、車で買い物に行きます。仕事はこれからも続けるつもりです」

奥野さんも「社長賞」をもらった。病



院で外部講師を招き、マナー研修をしたとき、階段を掃除していた奥野さんは、いつものようにあいさつをして、さつとよけて「どうぞ」と。感心した講師が事務長に話し、事務長から出雲営業所の石飛さんに報告があった。

「うちの社のモットーは、あいさつができること、素直であること。それは朝礼や年何回かの研修会で徹底しています。すべての方々が私どものお客様ですので、素直な気持ちであいさつできることを大事にしています。また病院で働くスタッフは、感染症の話などの専門的な勉強会も行っています」

「社長賞をもらう社員に恵まれて、幸せです」と石飛さん。

「本当の社会貢献は、障害者を雇用するだけでなく、障害者の方々が職場の中で元気に楽しく、いきいきと働き、周りの障害者の方々にも、がんばろうと思っただけのことだと思っています」

「信頼」の積み重ねが、「長年のお付き合い」に……。現場では、一人ひとりの障害者が清掃のプロとして、誇りを持って仕事をしているのが心に残った。最後に田中社長の言葉。

「サービス業ですので、いい仕事をしてお客様に喜んでいただくことが第一。高齢者雇用、障害者雇用を含めて、雇いで社会貢献したいと思っています」